

# 笑顔の仮面

## 登場人物表

芽衣子(大学2年生) みんなの前ではにこにこしていて気もきくがそんな毎日とうんざり

している 映画研究部

くるみ(大学2年生) 映研に2年から入った 人を寄せ付けない雰囲気を持っていて、映研

にとけこめないでいる

俊哉 (大学1年生) 芽衣子にあこがれをいだいている

安場 (大学2年生) 映画研究部の部長

#1 BBQ

芽衣子が率先して準備をしている

それぞれが喋っていることに笑顔でうなずいている

友人1 「芽衣子も食べれば？」

芽衣子 「大丈夫だよ。食べてるよ」

芽衣子、最後まで片付けをしている

部屋に戻る

俊哉 「芽衣子さん、働きすぎですよ」

芽衣子 「私なんにもしてないよ。楽しかったねー」

くるみがあとを一人でついて歩いている。

芽衣子 「あ、忘れ物したかも。ちょっと先行つてて」

友人2 「え、大丈夫ですか？ついていきますよ？」

芽衣子 「ひとりで大丈夫だから！」

友人2 「あ、そうですか…」

俊哉が部屋に戻る

芽衣子はBBQ場に向かう

くるみが芽衣子の背中をじっと見ている

#2

芽衣子がかくしてあったビールを手に取り、BBQ場を離れる

中庭に腰かけてビールを飲み、あくびをしながら、空を見上げる

#3 翌日

芽衣子 「安場、ごめん。ちょっと体調悪くて。今日撮影いけないかも」

安場 「まじか。大丈夫？休んどきな」

芽衣子 「ありがとう」

芽衣子が部屋に戻る

俊哉 「安場さん、芽衣子さんどうしたんですか？」

安場 「ん？なんか、体調悪いつて。

入院してるやつもいるしな。変なウイルスかかってないといいけど…」

俊哉 「え…大丈夫ですかね…」

俊哉が芽衣子の部屋の方を見つめる

#4

芽衣子が部屋で天井を見上げている  
外ではみんなが撮影の準備をしている声が聞こえる  
安場 「忘れ物ないか」  
友人3 「芽衣子さん忘れてますよ」  
安場 「バカか」  
みんなが笑う  
ドアが閉まる

#5

芽衣子が部屋から出てくる  
冷蔵庫からビールを取り出して飲む  
ビールをもう一本取り出して外に出る  
ふらふらと空を見上げながら山中湖方面に歩き出す  
山中湖を眺めながらビールを開ける  
ぼーっと空を眺めている  
あくびをしながら寝っころがる  
くるみが芽衣子の顔を覗き込む  
芽衣子 「びっくりしたー!!」  
くるみ 「あくびとかするんだねえ、芽衣子さん」  
芽衣子 「私だって人間だからねえ」  
芽衣子がビールを隠しながら微笑む  
くるみ 「体調大丈夫なの、もう」  
芽衣子 「まあ、ね」  
くるみ 「それ、ちょうだい」  
くるみが、芽衣子のパーカーの中に隠したビールを指さす  
芽衣子 「え…」  
髪を耳にかけ、表情を殺して、ビールをくるみに差し出す  
くるみ 「こんなことするんだねえ、芽衣子さん」  
芽衣子 「私だって人間だからね…」  
くるみと芽衣子が目を合わせて笑う

#6 飲み会

芽衣子が率先して準備をしている  
それぞれが喋っていることに笑顔でうなずいている  
安場 「お前、体調もう大丈夫なのか？」  
芽衣子 「うん。心配かけてごめんね」

安場 「あんま無理すんなよ。」

みんなはまだ飲み会を楽しんでいる

芽衣子が部屋に戻る

俊哉 「あれ、芽衣子さんは？」

後輩1 「体調悪いって言ってたし部屋戻ったんじゃない？」

#7

芽衣子とくるみが起きてこない

安場 「あいつら何してんだよ……」

友人2 「私見てくるね」

友人2 「芽衣子さん、くるみちゃん、起きて！」

芽衣子 「ごめん……体調悪くて……くるみちゃんにもうつしたみたいで」

友人2 「大丈夫？病院行く？」

くるみ 「私ちょっと具合悪いくらいだからあとで芽衣子さん連れてくよ」

友人2 「ほんとに？なんかあったら連絡してね」

#8

くるみと芽衣子が笑いあう

くるみ 「不良だったんだねえ、芽衣子さん」

芽衣子 「私だって人間だからねえ……」

芽衣子が天井を見上げる

その顔に表情はない

#9

川辺に芽衣子とくるみが並んで座っている

芽衣子 「ほんとのことって言わない方がいいと思うんだ。

心の奥底の声って誰にも聞かせたらいけないんだよ、

自分だけのものにしとかないと。

いつか誰かに盗まれてしまうんだ。」

芽衣子は遠くの一点を見つめている

くるみ 「あたってた」

芽衣子 「何が？」

くるみ 「芽衣子さんのその孤独な目を見て、映研に入ろうと思ったの。

映画なんてどうでもよかった」

芽衣子 「あーあ。見破られてたってことかー。」

#10

芽衣子が脱力したように笑う

芽衣子が寝転んで空を見上げている

くるみ 「そろそろいきいますか」

芽衣子 「仮面をかぶるお時間ですねえ」

二人が笑いながら歩いていく

END